

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 荻野 泰明

〔題名〕

集中治療室で人工呼吸管理中の患者におけるせん妄の発症と全身性炎症の関連についての前向き観察研究

〔要旨〕

- 背景：** せん妄は多くの集中治療室 (intensive care unit : ICU) における共通の問題として認識されており、重大な合併症や不良な予後との関連が指摘されている。人工呼吸管理を受けている患者における炎症とせん妄の関連についてはこれまで十分に検討されていない。
- 方法：** ICUで48時間以上の人工呼吸管理を受けた成人患者を対象として前向き観察研究を実施した。抜管時 (0 h) およびその24時間後 (24 h) に、Confusion Assessment Method for the ICU (CAM-ICU) によりせん妄の有無の評価と、炎症性バイオマーカーである、C反応性蛋白 (C-reactive protein; CRP) 、プロカルシトニン、インターロイキン-6 (interleukin-6; IL-6) 、インターロイキン-8 (IL-8) の血清中濃度および末梢血白血球数の測定を行った。0 h、24 hのうち、いずれか1回でもCAM-ICUが陽性であった患者をせん妄群、いずれもCAM-ICUが陰性であった患者を非せん妄群とした。
- 結果：** 28名の患者が対象となり、12名がせん妄群、16名が非せん妄群であった。両群間で、Acute Physiology and Chronic Health Evaluation (APACHE) IIスコアと、0 hにおけるSequential Organ Failure Assessment (SOFA) スコアを除く背景因子に有意差を認めなかった。せん妄群では、24 hにおけるプロカルシトニン、IL-6の血清濃度が非せん妄群と比較して有意に高値であった。また0 hから24 hまでの24時間に、非せん妄群ではCRP、IL-6およびIL-8が有意に減少し、せん妄群では末梢血白血球数のみが有意に増加した。
- 結語：** 抜管前後の時期におけるせん妄の発症には、遷延する炎症が関連している可能性が示された。

最終試験の結果の要旨

報告番号	甲 第 1400 号	氏 名	荻野 泰明
最終試験担当者	主査教授	山崎 隆 弘	
	副査教授	鶴田 良 介	
	副査教授	田 邊 剛	
(最終試験の結果の要旨)			
<p>学位論文審査会において、申請者に本研究の概要説明を求めた後、以下の設問を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICU 患者におけるせん妄の、一般的に多数例で報告されているリスク因子を挙げよ。 2. ICU 患者の予後不良因子として、せん妄以外にどのような因子が挙げられているか述べよ。 3. CAM-ICU と ICDSC についてそれぞれ説明せよ。 4. せん妄の判定に重症度はあるのか。あるとすれば炎症の程度と比例するか。 5. APACHE II スコアと SOFA スコアについてそれぞれ説明せよ。 6. 2 群間で基礎疾患の重症度に何らかの傾向があったか述べよ。 7. せん妄群でプロカルシトニンと IL-6 に群間差を認めた点について、どのような炎症であったと言えるか。遷延する炎症の原因は特定できるか。 8. せん妄群と非せん妄群でプロポフォールの使用について有意差が認められなかった理由を考察して述べよ。 9. せん妄群と非せん妄群とで再挿管率がどうであったか述べよ。 10. バイオマーカーを 3 種類に分類し、各グループにおけるせん妄の代表的マーカーを述べよ。 11. ICU でのせん妄のバイオマーカーとして髄液検体を用いることについて考察して述べよ。 12. CAM-ICU の結果が、1 回目のみ陽性、2 回目のみ陽性、2 回とも陽性、としたサブグループで解析を行った場合、バイオマーカーの推移に特徴があったか述べよ。 13. バイオマーカーが 2 回目の測定で 1 回目より上昇した群において、せん妄群の有無に有意差があったか述べよ。 14. 今回の研究において、ICU 患者におけるせん妄に関連する因子として疾患重症度と炎症の遷延を挙げているが、疾患重症度と炎症の遷延とはリンクしていたか否か述べよ。 15. 今回の検討で鎮静剤の影響について不明としている。群間差を認めていることから、今後の臨床にどのように反映させるべきか考えを述べよ。 16. 今回の研究の結果から、せん妄の発生機序について何らかの予測ができるか、述べよ。 17. せん妄の評価の回数を増やしたり、観察期間を延長したりすると結果が変化することは予測されるか。 18. 臨床において、ICU 患者のせん妄の発症を軽減させるためには今後どのような展開が考えられるか。せん妄の予防に応用可能か述べよ。 <p>以上の設問に対し、申請者は公聴会において的確に回答した。よって、最終試験に合格したものと認めた。</p>			